



第68回国民体育大会(写真上)と第13回全国障害者スポーツ大会(写真下)の開会式でエネルギッシュな演奏を披露する増田太郎さん。ご自身で作曲したヴァイオリンの旋律が味の素スタジアムに響きました。
 (写真上 撮影: 緒車寿一 / 写真下 提供: スポーツ祭東京2013実行委員会)

撮影協力: 味の素スタジアム

平成13(2001)年に開業の多目的スタジアム。JリーグのFC東京、東京ヴェルディのホームスタジアム。天然芝フィールド(約7,600㎡)、人工芝フィールド(約12,600㎡)、スタンド(49,970席)、大型映像設備(2基)などを有する。柱のないスタンドで見やすさと快適性を実現し、日本最大級の天然芝フィールドはアスリートの最高のプレイを支える。サッカーやランニングイベント、コンサートなどの多彩なイベントのほか、昨年の「スポーツ祭東京2013」では、メイン会場として日本全国の選手・観客に大きな感動をもたらした。



れましたか。
増田 とてもにこやかに迎えていただいて、握手した時も、本当に柔らかい手で包んでくれました。「自由にやるのが大切だよ」と言っていました。

**笑顔のキャッチボールで
バリアフリーのまちづくりを**

清原 平成23年3月11日に東日本大震災が起きました。三鷹市でも、さまざまな被災地支援、復興支援を続けてきましたが、増田さんも取り組みをされてきたとお聞きしています。

増田 今まで演奏で訪れていたまちが、「被災地」として報道され、それを見たときに、「自分には何ができるんだろう?」と考えました。そこで、「希望の景色」という曲をホームページで発表しました。震災の直後です。

清原 どんな想いでつくられたのですか。
増田 「たとえ今、不安のなかにあっても、希望を胸に未来に向かって歩き続けていきますように」という想いを込めました。その後、訪れた東北の各地や全国のステージで、この曲を演奏し続けています。

清原 観客の反応はいかがですか。
増田 コンサートでは、会場でいただく「拍手」が曲を重ねるごとに変わっていきます。最初は緊張気味の拍手です。でも、どんどん温かく、にこやかに、生命力あふれる拍手になっていくんです。

清原 拍手の音色が変わり、意味が変わってくるんですね。増田さんには拍手のなかに笑顔が見えるんですね。
増田 そうなんです。目の前の人が笑顔で話しているか、僕にもちゃんとわかるんです。

清原 増田さんは、演奏や歌、そして語りを通して、



増田太郎さん Taro Masuda

昭和43(1968)年生まれ。小学校から高校まで三鷹市内の明星学園で学ぶ。5歳よりヴァイオリンを始め、20歳で視力を失うが、その生命力あふれる演奏が新聞、テレビで話題となる。東日本大震災直後、楽曲「希望の景色」発表。アルバム「希望の景色」収録曲「Waltz Noir」がテレビ東京「美の巨人たち」エンディングテーマに起用される。平成24(2012)年、林真理子さんの直木賞受賞作で小西真奈美さん朗読のオーディオブック「京都まで」の音楽制作と演奏を担当。ヴァイオリンを弾きながら歌うというパワフルなスタイルで、通常のコンサートに加え演奏と講演を融合させた「講演ライブ」を全国の自治体、企業、学校で展開。昨年、味の素スタジアムで開催された「スポーツ祭東京2013」の二つの開会式において演奏する。



増田さんの作品。左上から時計回りに、さまざまな出会いや盲導犬とのエピソードをつづったエッセイ「毎日が歌ってる」、ライブで好評の楽曲を集めたヴォーカル・アルバムCD「Present～きみに届けたいこと～」、初のヴァイオリン・アルバムCD「希望の景色」。いずれも増田太郎公式ホームページ(下記)で購入可能。

増田太郎さんの今後の活動は、2月19日(水)横浜市緑区主催「人権コンサート～心の握手」(みどりアートパーク)ほか、3月に東北復興支援イベント出演予定。くわしくはMプロまで。
 ☎03-6761-8875・☎03-6761-8876
 HP <http://tarowave.com/>

して聴く人の心を解きほぐしている。被災地での、そんな光景が目につくようです。
増田 ホームページにメッセージを送ってくれる方もいらつしやいます。震災からご自身に起きたこと、そして音楽に触れて感じた想い。そんな言葉をいただくと、本当にうれしいですね。

清原 増田さんの音楽は人と人の心の垣根を越えて伝わっているんですね。三鷹市でもバリアフリーの取り組みを行っています。高齢者や車いす利用者、視覚障がい者が移動しやすい歩道や建物といった物理的なバリアフリー。ホームページで情報の読み上げ機能を付けるなどの情報のバリアフリー。就職のバリアフリーとしては、障がい者就労支援センターを障がいのある方にも参加いただけて運営しています。そして、心のバリアフリー事業です。

増田 素晴らしい取り組みですね。
清原 増田さんは音楽を通して、人と人の心をつなぐバリアフリーを実践されていると思います。三鷹市の取り組みへのアドバイスはありますか。

増田 僕は「心の握手」が大切だと思っています。そして、心と心で握手するための第一歩、それはやっぱり笑顔です。笑顔ってほかの人を明るく照らし、温めてくれると思うから、そんなふうに関わり、握手が交わされたら素敵ですね。

清原 人と出会ったときに、笑顔で交流できれば、自分は孤独じゃないって感じられますよね。
増田 一人じゃないって

ですごく大きいですよ。僕は音楽家として、観客からいただく拍手が生きる原動力になっています。行政と市民の関係も同じではないでしょうか。たとえば、施設利用者が「ありがとう」と笑顔で言えば、施設の運営者も「次はこんなことをしてみよう」と前向きに考えるようになるでしょう。音楽ライブのように、笑顔のキャッチボールができると思うんですね。

清原 私たちも建設的な意見をいただくことで、より良い行政に変えていくことができます。みなさんが笑顔で提案しやすい市政を目指していきたいですね。

増田 ぜひお願いします！
清原 今後の音楽活動では、どのようなビジョンをお持ちですか。

増田 まず、2020年の東京オリンピックでの演奏を目指します。今回の「スポーツ祭東京2013」の経験も大いに生かしたいですね。夢は言い続けていけばきっと叶います。「叶」という漢字は、「口で十(10)回言うこと」を表していますからね(笑)。

清原 そうですね。願えば現実になるというのは普遍的な真理だと私も思います。これからもどうぞ三鷹市との縁を大切にしていきたいって下さい。

増田 ありがとうございます！